

森林作業道作設標準例

四 国 森 林 管 理 局

森林作業道作設の基礎

規格・構造

1 想定車輛

想定車輛は、

- ・ホイールタイプ（車幅2.5 m以下・軸距4.6 m以下）
 - ・クローラタイプ（全幅2.5 m以下）
- とする。

2 幅員

幅員は3.0 mとする。

曲線部の拡幅は通行可能な幅員とする。

3 使用機械

設計幅員作設に見合った、機械を使用すること。

4 曲線半径

曲線半径は、林地傾斜・地質・地形に応じて車両が安全に走行できる長さとし、6 m材の搬出が出来るものとする。

5 縦断勾配

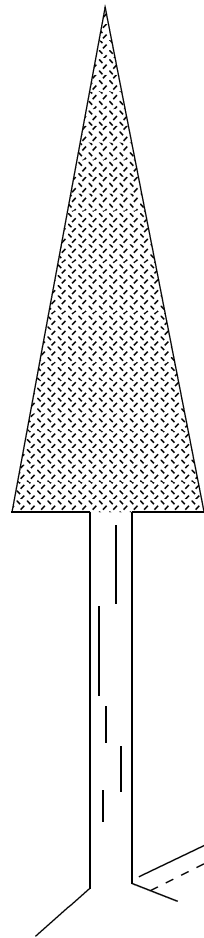
縦断勾配は、

- ・ホイールタイプ最急8度
 - ・クローラタイプ14度程度
- とする。

6 スイッチバック

林地傾斜等により想定車両が安全に走行できる曲線半径の確保が困難な場合は、スイッチバックを設置出来ることとする。

盛土のり面保護工



2. 0m未満:直(全土質)

標準1:1程度

表土をはぎ取り地山を水平に
床堀をする

注) はぎ取った表土及び灌木の根株等を、ブロック状に
転圧しながら積み上げ、その内側に切土を込めて転圧
する作業を数回に分けて繰り返す。

転圧は、クローラで十分に行い、一層の厚さは30cm
程度を標準とする。

現地の地形、地質により、標準勾配により難しい場
合は監督職員と協議の上、変更できるものとする。

萌芽を発生する小灌木は低く切り過ぎないように
する。

丸太組土留工(A)

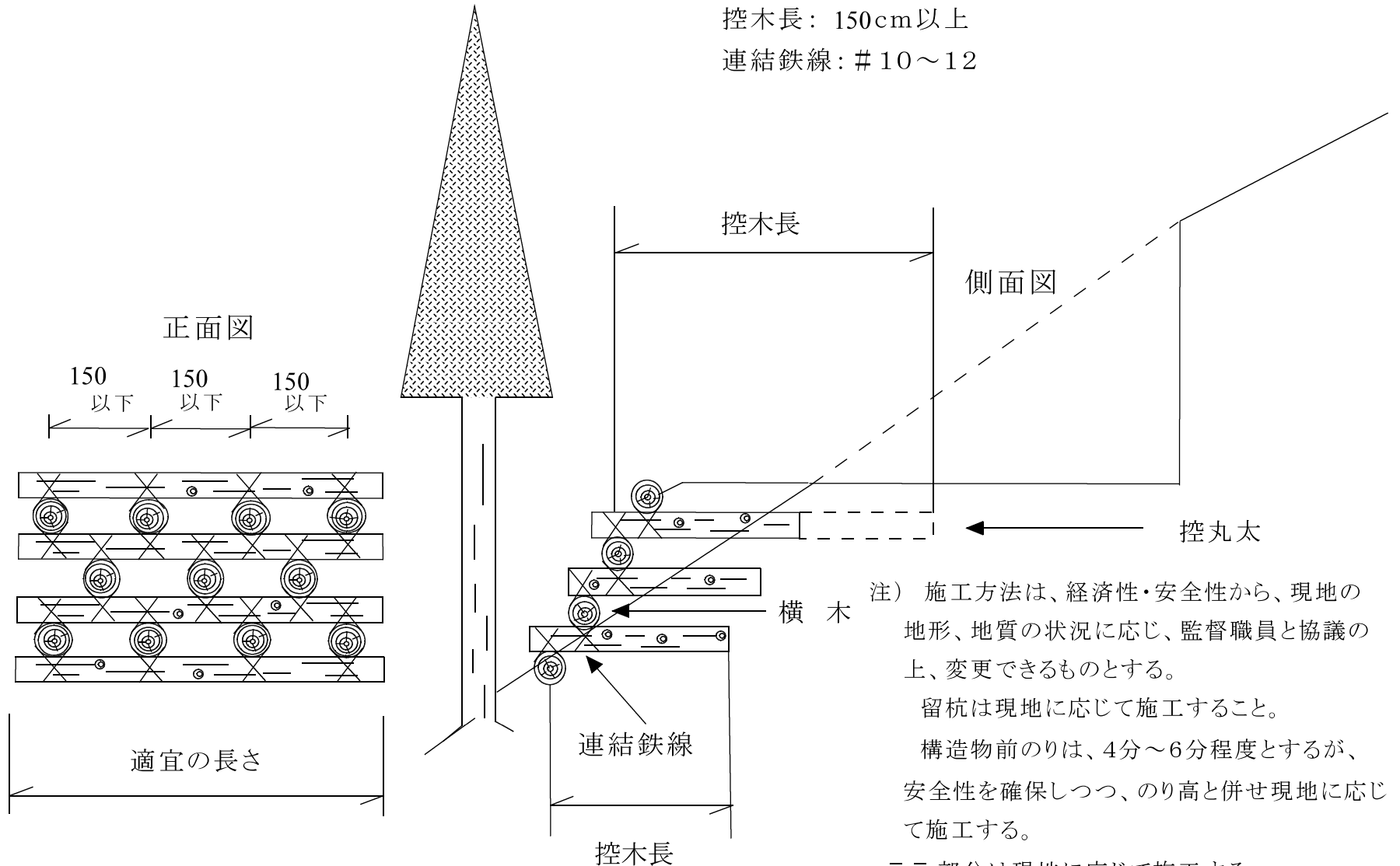
単位: cm

丸太組規格

使用丸太径級(末口): 15cm以上

控木長: 150cm以上

連結鉄線: #10~12



注) 施工方法は、経済性・安全性から、現地の地形、地質の状況に応じ、監督職員と協議の上、変更できるものとする。

留杭は現地に応じて施工すること。

構造物前のは、4分~6分程度とするが、安全性を確保しつつ、のり高と併せ現地に応じて施工する。

「二」部分は現地に応じて施工する。

丸太組土留工(B)

単位:cm

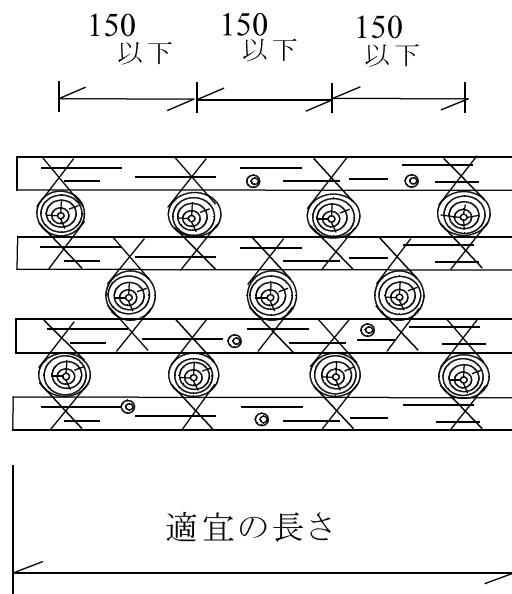
丸太組規格

使用丸太径級(末口):15以上

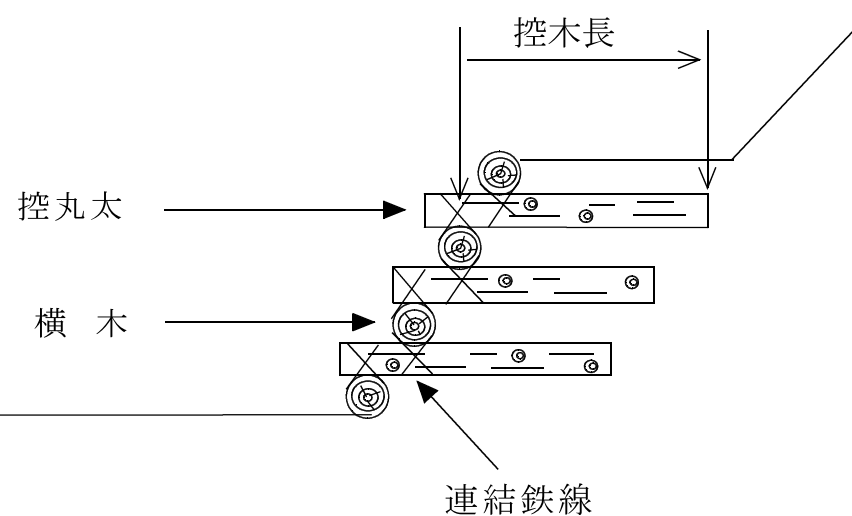
控木長 :原則 80以上

連結鉄線:#10~12

正面図



側面図



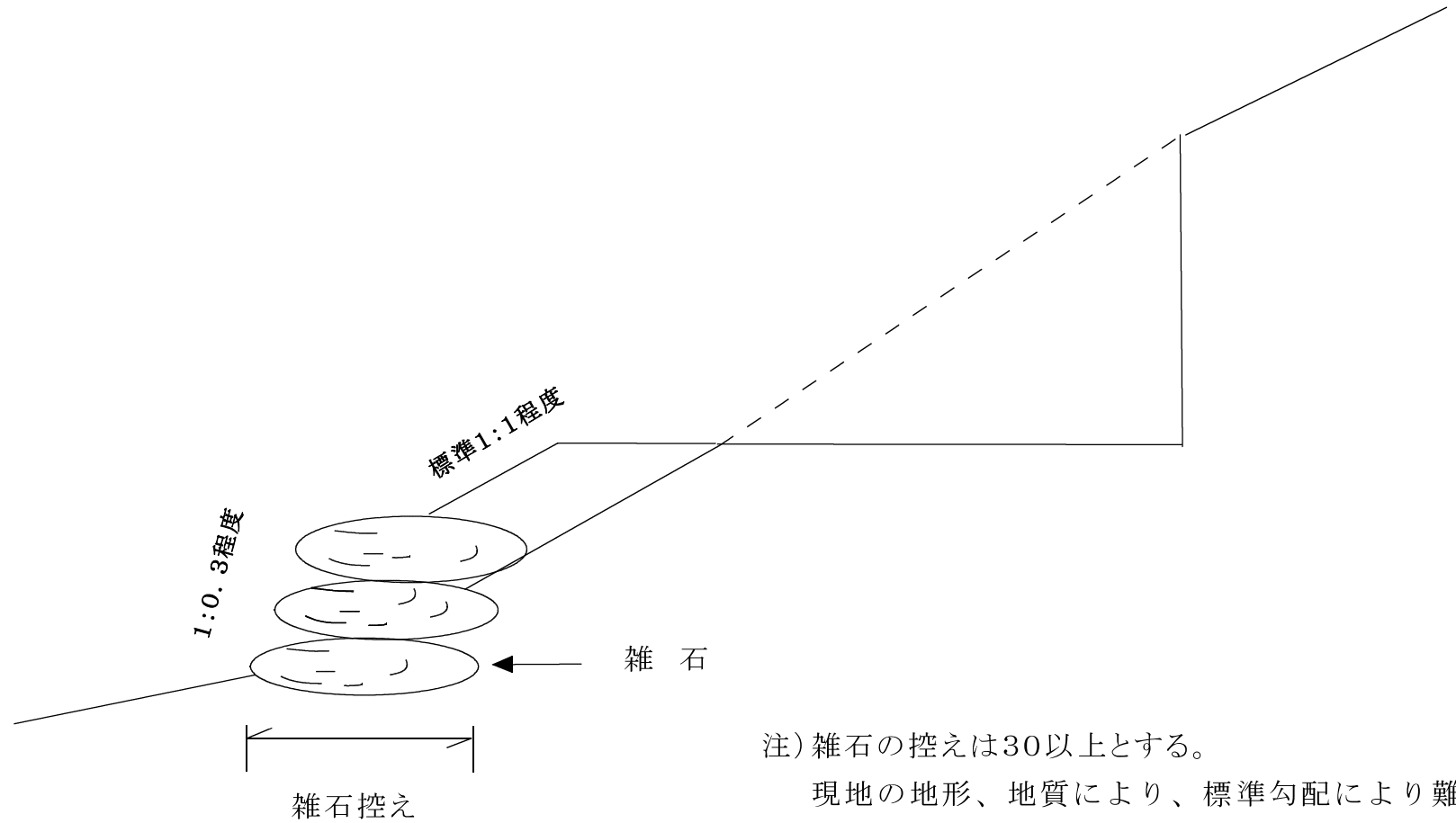
注) 施工方法は、経済性・安全性から、現地の地形地質の状況に応じ、監督職員と協議の上、変更できるものとする。

留杭は現地に応じて施工すること

構造物前のは、4分~6分程度とするが、安全性を確保しつつ、のり高と併せ現地に応じて施工する。

雑石空石積土留工

単位：cm



注) 雑石の控えは30以上とする。

現地の地形、地質により、標準勾配により難しい場合は監督職員と協議の上、変更できるものとする。

水切工

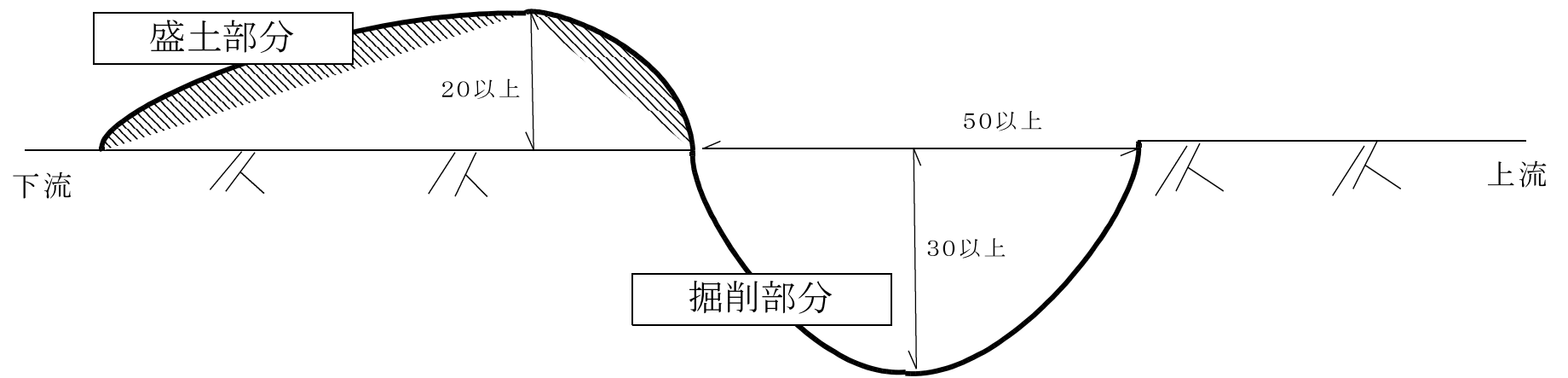
(寸法単位:cm)

クローラタイプに適用

設置密度(標準)

縦断勾配 3~ 5%:100~150mに1箇所

5~12%: 50~ 80mに1箇所



注) 施工は下方に対し斜めに設置し排水を良好にすること

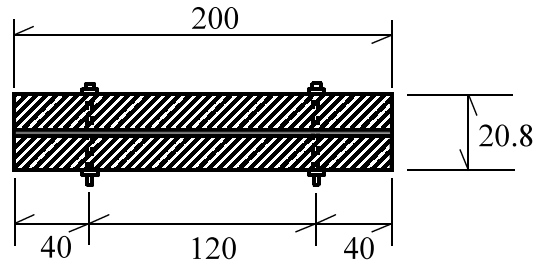
3500

木製構造物

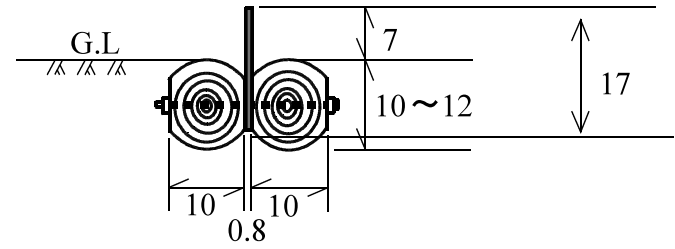
3511

路面排水工(A)

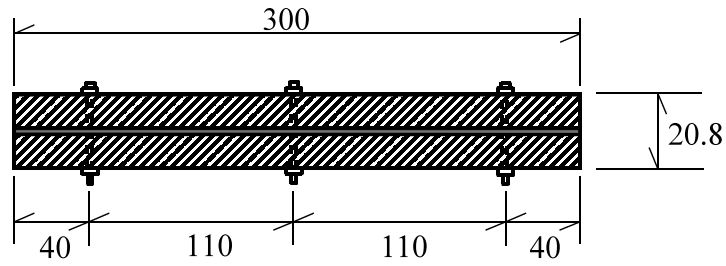
200型 (A)タイプ



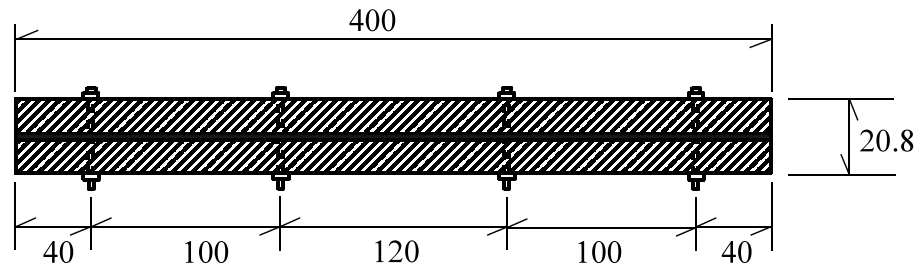
Aタイプ



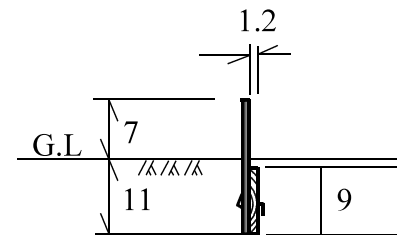
300型 (A)タイプ



400型 (A)タイプ



Bタイプ



ゲート・看板設置工

使用材料：鉄6cm角パイプ 錆止め塗装を基本とする。

看板は、幅45cm、高60cmとし、
「立入禁止、作業道への作業員以外の立入を禁止する。
また、クローラタイプ及びホイールタイプ（軸距4.6m以下）
以外の車輛乗入を禁止する。

〇〇森林管理署長」

と記載しボルトで固定する。

ゲートブーム高

筋交い：鉄筋・タンバックル使用

看板取り付け穴：12mm
9mmボルト4本付き

ゲートブーム4mを現地にあわせ切断使用する。

ロックボックス：150×150×150mm

路面

埋め込みの深さは原則1m以上とする。
設置後のゲートブーム高は1m以下とする。
埋め込み箇所の足元は、小石等で固める。
蝶番箇所のボルト用割ピンは、潰しておく。

作業道用簡易ゲート4000型

